
5号室の客

黒井伸男

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

5号室の客

【Nコード】

N5380T

【作者名】

黒井伸男

【あらすじ】

旅先で泊まったビジネスホテルで起きた 怪異

有休休暇をとって、九州方面に旅行することにした。

特急と各駅停車を適当に乗り継いで、見知らぬ駅で降りた。

駅の近くにビジネスホテルがあったので、そこに泊まることにした。

翌日の朝食付きで4000円という安さに驚いた。

俺の部屋は303号室だった。

携帯電話を見ながら廊下を歩いていると、自分の部屋を通り過ぎてしまった。

ドアを見ると304号というプレートが見えた。

隣の部屋は304号室なのか。

4は忌数で、3号室の次は5号室になっているホテルも多いのに、このホテルは違うらしい。

夜、部屋でくつろいでいると、隣の部屋、304号室から変な歌が聞こえてきた。ベランダに出てみると、よりハッキリと歌が聞こえた。

逃げたあゝ女房ニヤゝ未練はないがあゝ♪と気持ち良さげに懐メロを歌っている。

物凄いガラガラ声で音程も外れまくっていた。

俺としては迷惑以外のなにものでもなかった。

部屋に戻り、テレビを見ていると、急にドアをノックされてドキッとした。

ドアを開けると、ホテルの浴衣を着た中年の男性が立ってた。そして俺にこう言った「歌がウルサイから静かにしてくれませんか」と。

歌を歌ってるのは隣の4号室の客だと説明したら、その男性は怪訝な顔した。

「このホテルには4号室はないよ。この隣は5号室で、僕の泊まっ

てる部屋だ。歌声は確かにこの部屋から聞こえたんだ」

5号室の男性が苦情を言ってる間も、壁からは微かに歌が聞こえている。

俺は男性を部屋の中に入れて、ベランダまで案内した。

隣の歌声がハッキリと聞こえる。

「どうなってるんだ、隣は間違いなく僕の部屋で5号室のはずなのに、これはいったい…」

俺と5号室の男性は部屋を出て、隣の部屋を確認した。

するとやはり、ドアには304号のプレートが貼ってある。

「そんな馬鹿な、さっきまで4号室なんてなかったのに」

5号室の男性はともウロタエていた。

5号室の男性が4号室のドアをノックしようとした、その時、

4号室のドアが素早く開き、中から蜘蛛のように黒く長い、毛むくじゃらの手が伸びてきて、

5号室の男性を襟首を掴むと、素早く中に引っ張りこんだ。

バタンッ！4号室のドアが激しい音をたてて閉まった。

俺はびっくりして自分の部屋へ戻った。

今の出来事をフロントに連絡しようかどうしようか迷った。

気を鎮めて、もう一度、隣の部屋の前まで行ってみた。

そこは305号室だった。

304号室は男性を引っ張りこんだまま、忽然と消えていたのだ。

俺は試しに305号室をノックしたが、応答はなかった。

結局、フロントには連絡できなかった。

翌日、俺は逃げるようにそのホテルをあとにしたのだった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5380t/>

5号室の客

2011年10月9日02時54分発行